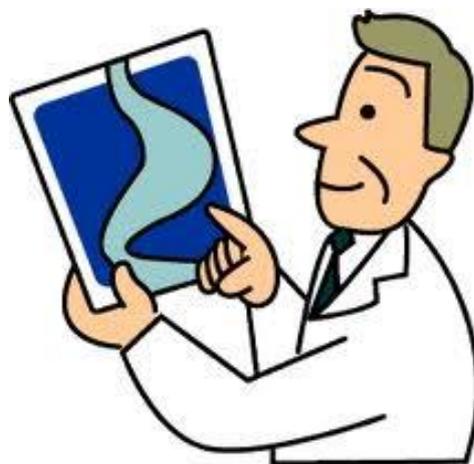


## 胃カメラ検査について

医療法人 小金井中央病院  
外科医 兼田 裕司

### 【はじめに】

今回は胃カメラ検査についてのお話です。胃ガンで亡くなる患者さんは年々減少しています。しかし、検査で胃ガンが発見される患者さんはそれほど減少してはいません。つまり、胃ガンにかかりにくくなっているのではなく、胃ガンが発見されやすくなり、早期に治療が開始できるため亡くなる方が減少してきていると考えられています。胃ガンが発見されやすくなった大きな理由として胃カメラ検査を受ける患者さんが増えてきたことが挙げられます。



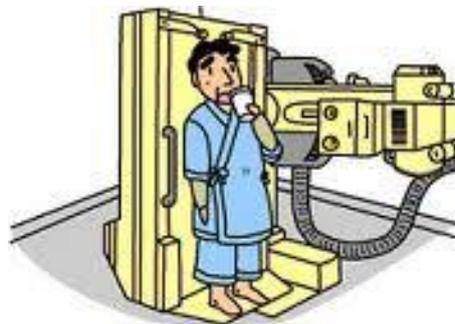
### 【検査について】

胃カメラ検査は胃の中を直接観察しながら検査を進めるため、小さな胃ガンや平らな形の胃ガン、また胃潰瘍、食道の炎症などの診断能力に優れており、その病変の一部を採取して、より詳しく検査をすることもできます（病理検査）。つまり、通常の検査からいきなり精密検査まで行うことができるわけです。もし、運悪く胃ガンと診断されても形・大きさによっては胃カメラで取り除くこともできます。しかし胃カメラもいいことだらけではありません。



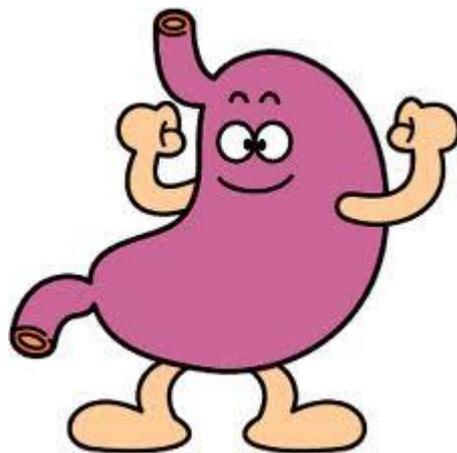
一番大きな欠点は検査に伴う吐き気です。この吐き気があるため、胃カメラを敬遠される患者さんもいらっしゃいます。そのためこの吐き気が我々医療従事者にとっても悩みの種です。吐き気をできるだけ取り除くため、ノドの麻酔を十分にきかし、場合によっては吐き気を抑える注射をして検査を行っています。

バリウム検査はバリウムを飲み、レントゲン写真を撮るという手軽さから現在も検診などで行われています。しかし、小さな胃ガンや平らな形の胃ガンはバリウム検査で発見することは困難です。



### 【最後に】

胃カメラ検査を希望される患者さんは年々増加しています。年齢は40歳以上の方が多いですが、胃ガンの中には20代の方でもかかるタイプのものもあります。胃の調子が悪いと感じたときは年齢にかかわらず、一度胃カメラ検査を受けてみて下さい。



# インフルエンザの予防について

医療法人 小金井中央病院  
南病棟看護師長 関谷 千佳子

インフルエンザは、インフルエンザウイルスが原因で起こる病気で、突然の発熱や全身の倦怠感などの症状が特徴です。伝染性が非常に強く、症状が激しく、重症化しやすいなどから、普通のかぜとは区別すべき病気です。特に高齢者や乳幼児は重症化しやすいので注意が必要です。



## インフルエンザの基礎知識

- ・インフルエンザウイルスの種類  
現在までに発見されているインフルエンザウイルスには、A型・B型・C型の3つの型があります。
- ・インフルエンザの流行シーズン  
通常日本では、毎年11月下旬～12月上旬にインフルエンザのシーズンが始まり、1～3月にピークを迎えます。
- ・どうやって広がるの？  
強い感染力で、人から人へくしゃみや咳による飛沫の飛散などで感染し、広い範囲で流行を引き起こします。



## 予防対策

- ・インフルエンザワクチンの接種  
インフルエンザの流行や健康被害を抑える第一の方法は、流行前にワクチンを接種することです。予防接種を受けておくことで発病や、高齢者や小児、基礎疾患を持っている人の重篤な状態になるのを防ぎ、入院や死亡のリスクを下げるのが期待できます。多くの人に接種を実施して周囲の人に感染が広がることを抑えることも重要です。



- ① 接種の時期 12月上旬までに接種することが勧められています。
- ② 接種の効果 約5ヶ月間その効果が持続するとされています。
- ③ 接種の回数 12歳以下は2回接種します。1～4週あけ、2回目を接種します。

ワクチン以外では、「人ごみを避ける」「外出後は手洗い、うがい」「マスクをする(咳エチケット)」「適度な温度と湿度を保つ」などの対策が重要です。



手 洗 い



う が い



マスクをする

・インフルエンザの診断・検査

発熱後24～48時間後に血中のウイルス量が増加する為、この時期に迅速検査をすると陽性になる率が高くなります。

・インフルエンザの治療

インフルエンザの治療の基本は、症状を抑えるための対症療法と、抗インフルエンザウイルス薬による治療です。

当院でもインフルエンザの予防接種を受けることができます。接種料金は年齢や市町村ごとに異なります。詳しくはスタッフへお問い合わせください。